○しをぢ (原 寛)

Fraxinus Spaethiana LINGELSHEIM (1907) ハ英國キュー植物園デ栽培サレテ居タ木カラ採ツタ花モ果モナイ標本ニ基イテ記載サレタモノデアル。コレハ頂生花序節 (Sect. Ornus) ニ入レラレタガ、コノ木ハ一度モ開花シタ事ナク、ソレマデ同節ノ *F. Sieboldiana* 等ト誤マラレテ居タ事カラ想像シタニ過ギナイノデアル。ソノ最モ著シイ特徵トシテ葉柄ノ基部ガ著シク膨大スル點ガ擧ゲラレテ居ル。私ハ Gray Herbarium デキュー植物園ノ同樹カラ採集サレタ標本ヲ見、又東大腊葉室ニハ早田文藏博士ガ明治 43 年キュー植物園デ、自ラ採集サレタ標本ガアル。コレ等ノ標本ハ葉柄ノ特徵カラ見テモ、又他ノ性質ニヨルモ、白澤保美博士 (大正元年) ノ云ハレル如ク、ヨク我ガ國ノしをぢ類ニ一致シ、他ノ種類トハ明カニ區別サレル。原記載ニハ葉ハ glaberima トアルガ、標本ニヨレバ小葉下面主脈ノ兩側ニ白細毛ガアル。

しをぢ類ハ今迄數種記載サレ、主ニ小葉ノ形、毛ノ多少、翅果ノ形等ニヨツテ區別サレテ居ル。併シコノ類ハ果實ノアル標本ヲ採集スル機會ガ少イタメ、少數ノ標本ニ基イテ記載サレテ居テ、個體ニヨル變異等ヲ研究スル資料ガ不足シテ居ル。多分猪熊泰三氏 (昭和 6 年) ガ書カレタ様ニこばちハしをぢト同一デアリ、又かいしじのきヤしこくしをぢモ別種デハナカロウト思ハレル。左様ニ考ヘレバ我ガ國ノしをぢ類ハ唯一種ト見做サレ、本州中部以西、四國、九州ノ山地ニ廣ク分布シ、ソノ學名トシテハ **F. Spaethiana** LINGELSHEIM ヲ用ヒルノガヨイ事ニナル。かいしじのきハ葉軸、小葉下面ニ毛ガ多イノデ、ソノ一變種 var. **nipponica** (KOIDZ.) HARA, comb. nov. (*F. nipponica* KOIDZUMI in Bot. Mag. Tokyo XXVIII, 286, 1914) ト考ヘタイ。

序ニ記スガそうましをぢ (*F. tenoderaecarpa* KOIDZUMI, 1934) ト云フモノハ、しをぢトハ全ク異ル植物デアル。コノ木ハ磐城石城郡閼伽井(アカイ)岳産トシテ發表サレタガ同山ニハナク、コレハ平町字大町ニテ野崎順氏ガ採集シタモノデ栽植品デアル。東亞ニハ近似種ナク、私ハ Green Ash ト呼バレテ居ル北米産ノ *F. lanceolata* BORKHAUSEN (*F. viridis* MICHAUX, *F. pennsylvanica* MARSHALL var. *lanceolata* SARGENT) ト同一ト思フ。SARGENT ノ Silv. N. Amer. VI, t. 272 (1894) ニ良イ圖ガアル。

○高野長英・渡邊崋山 (久内清孝)

コレ等ノ人達ガ、愛國憂世ノ志士デアツタ事ハ餘リニ顯著ナ事實ダガ、同時ニ彼等ガ博物部門トモ關係ノアル事ハ、知ル人ゾ知ル程度ノ事實ニ過ギナイ。卽チ長英ハ天保 7 年ニ起ツタ東北地方ノ凶年ニ鑑ミ、同年二物考ヲ著シテ居ル (此ノ本ハ、明治 15 年ニ群馬縣勸業課カラ再版サレテ居ル)。マタ、二物考ニハ崋山ノ寫生ニカヽル、じやがいもノ圖ガ挿圖トシテアル (二物トハそばトじやがいもヲ指ス)。近頃コノ圖ガ、恩田經介氏ノおもしろい植物 (昭和 17 年)、及ビ新村出氏ノ南方記 (昭和 18 年) ニ轉寫サレテ居ルカラ、多クノ人ノ目ニ映ジタコトデアラウ。長英ハ二物考ヲ執筆スル丈ノ實力素養ノアツタ人デアルシ、崋山ハ畫家トシテモ既ニ定評ノアル腕前ノアツタ人デアリ、且ツ草木六部耕種法ノ序ニ依レ

バ、同書ノ著者デアル、佐藤信淵社中（佐藤家ハ天文、地理、農業物產ノ學ヲ修メ、且國土經緯ヲ論ズル家柄）ノ一人デアリ、マタ、同書ノ上梓ヲ令息信昭氏ニ慫慂シタ一人デアル、從ッテ、じやがいもノ圖デモ、腊葉カラ復元シタ近頃ノ圖トハ異ルノモ當然デアル。愛國憂世ト云フコト、ト、博物學的ノ學問トハ、無緣ノ樣ナ誤謬モアル現代ニ於テハ、大イニ參考ニ資スベキモノト考ヘラレ、故人ノ人トナリガ偲バレルデハナイカ、シカシテ、經世家ト云フモノハイツモ兩志士ノ如キ與床シサガアッテ慾シイ。

○ハブテコブラ　（久內淸孝）

此名稱ハ、本草時代ニハ今日云フおほけたでノ名トシテ用ヒラレタ、シカシ、おほけたでガ果シテ其名デ輸入サレタモノカ、或ハおほけたでニ非ザル別ノモノガ、其名デ輸入サレタモノカ、又別ノ理由、卽チ海外ニハウテコブラト云フモノガアッテ、おほけたでガソレト同一ノ性質ノモノト思ッテ、おほけたでヲ其名デ呼ブニ至ッタモノカ、其點ハ余ノ調査不備ノ爲不明デアルガ、何レニシテモ、ハウテコブラトハ如何ナル意味ヲ有スルカハ興味アル次第デアル。荒川惣兵衞氏ハ外來語辭典デ葡語ノ pao de cobra ノ變化デアルト見テ居ルガ面白イ考ヘ方デアル。

尙おほけたでガ在來アッタモノカ、外來ノモノカニ就テノ意見モアル樣ダガ、本草綱目啓蒙ガ「野生ハナシ」ト云ッテ居ルノガ當ッテ居ルト思ハレル、尙同書ニ「蠻舶來ニハブテコブラト呼モノアリ用テ蝮蛇ノ毒ヲ解スコノ葒草用モ同シ效アル故ニハブテコブラト呼又轉化シテカブテコブラ肥前ト呼」ト記シテ居ルガ、之モマタ面白イ考ヘ方デアル。

○花ノ圖案化ノ 1 例　（久內淸孝）

本誌 XI 卷 p. 319 デ、學校ノ徽章ニナッテ居ル植物ノ例ヲ擧ゲテアルガ、田中貢一氏著信濃の花（明治 36 年）ニ依レバ、とがくししようまノ花ガ圖案化サレタ例ガ擧ゲテアル。同書ニ依レバ明治 35 年 5 月 23 日ニ東宮殿下（大正天皇）ガ長野師範ニオ成リニナリシ折、此花ヲ御覽ニ入レシ記念トシテ、此花ヲ圖案化シタ徽章ヲ作リ、當時ノ在校生一同ニ頒ッタト云フノデアル。

○遠 志　（久內淸孝）

遠志ト云フ漢名ハ、我國デハ往々ひめはぎノ漢名トシテ慣用サレ、現在デハ大陸產ノいとひめはぎノ名稱トナッテ居ルカラ、ソレデヨイガ、明ノ嘉正 10 年頃（享錄 4＝1530）ノ博物志卷之四、藥物ノ條ニ「遠志ハ苗ヲ二日フ一小草ト根ヲ二日フ一遠志ト」アルカラ、元ハ生藥名デソレガ植物名ニナッタモノカモ知レナイ。尤博物志ナシカハ、學者卽チ科學者ノ見ルベキ本デナイトスレバ、ソレ迄ダガ、シカシ面白イ考ヘ方ノ樣ニモ思ハレル。